

ヒューマノイド・フィジカルAI覇権争い：日本の勝機と国家戦略

現状分析：日本の強みと構造的リスク

基幹部品の独占的シェア



ハードウェアの上流で圧倒的シェアを誇るが、AI頭脳と量産速度では米中に後塵を拝する。



切実な現場需要とSler網

深刻な人手不足。2060年までに労働人口30%減少。世界で最も切実な実装需要。

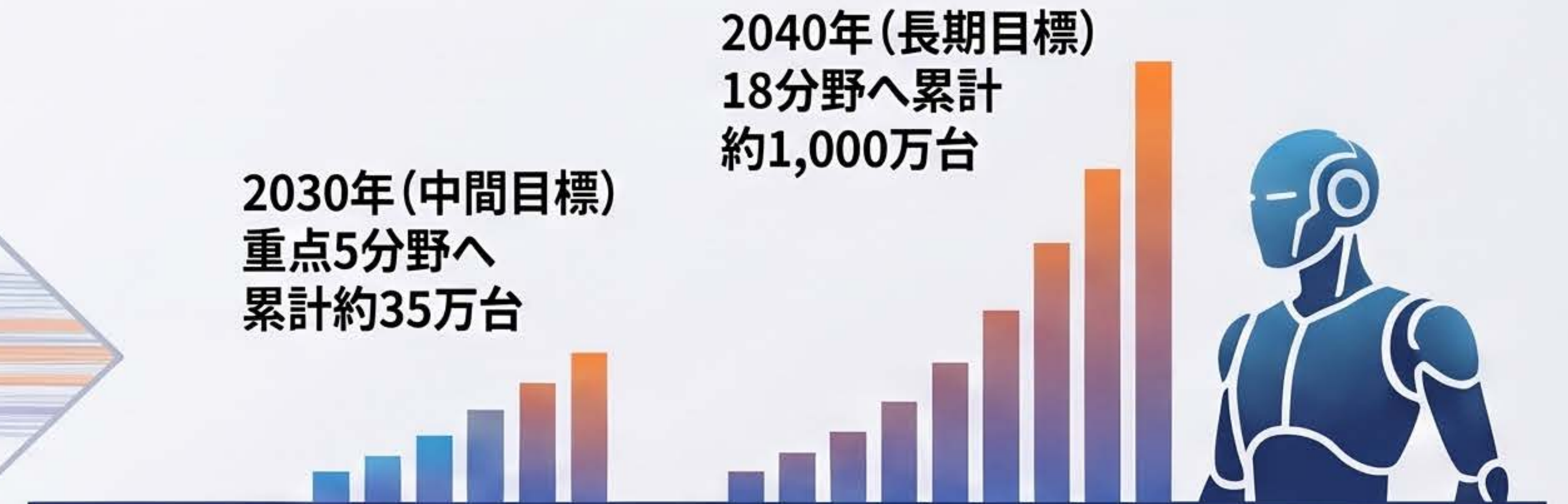


意思決定の遅れと下請け化リスク

「スマホ・EVの二の舞」。商用化の遅れから、国内に海外製が先行導入される逆転現象。

国家戦略：2040年に向けた反転攻勢と勝利の3条件

2040年世界シェア3割超(20兆円規模)獲得



AIロボット導入目標。グローバル市場で導入推進・データ基盤整備から世界シェア獲得へ。



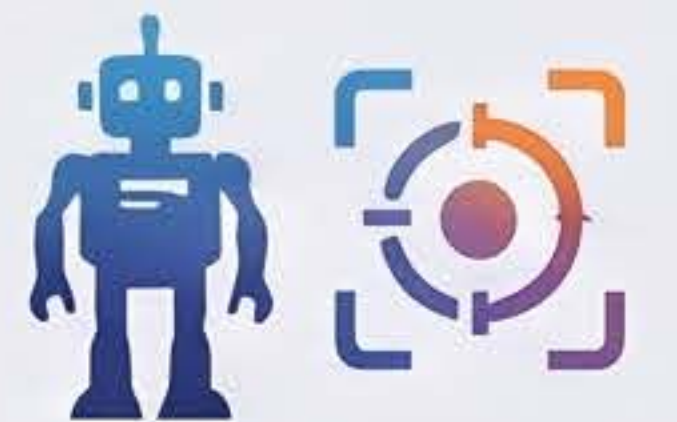
国産ロボット基盤モデルとデータ生成基盤

2026年データ生成センター始動。2027年6月国産AIモデル公開予定。官民構築。



スマートアクチュエーター標準化

駆動部モジュールの国際標準獲得で実利を取る。



二足歩行への固執脱却と現場のROI最優先

現場のROIを最優先する形態選定。